

スーパーマーケットにおける 環境対策の現状と課題

平成25年スーパーマーケット年次調査報告書より

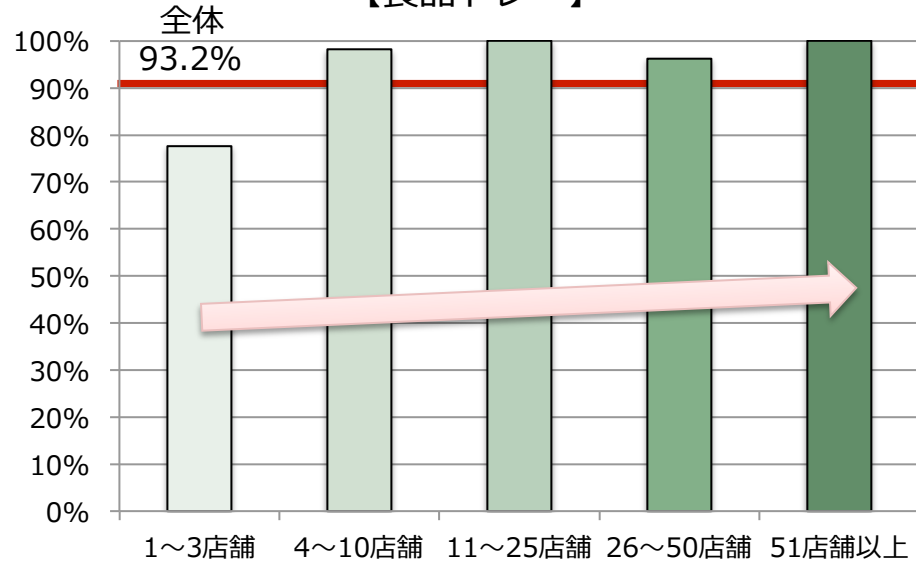
一般社団法人新日本スーパーマーケット協会
事務局長 島原康浩



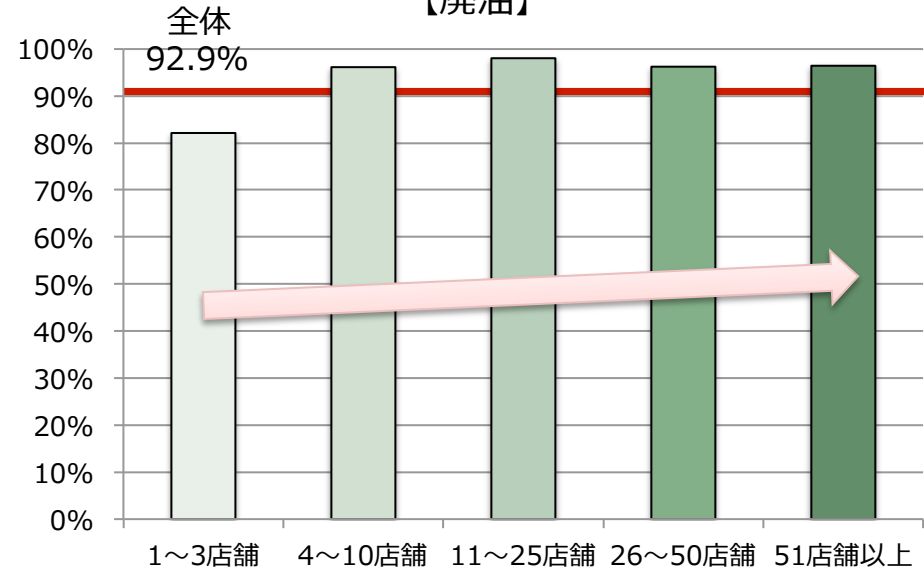
スーパーマーケットにおける環境対策取り組みI（リサイクル）

リサイクルは90%前後と企業規模を問わず、幅広く実施されている

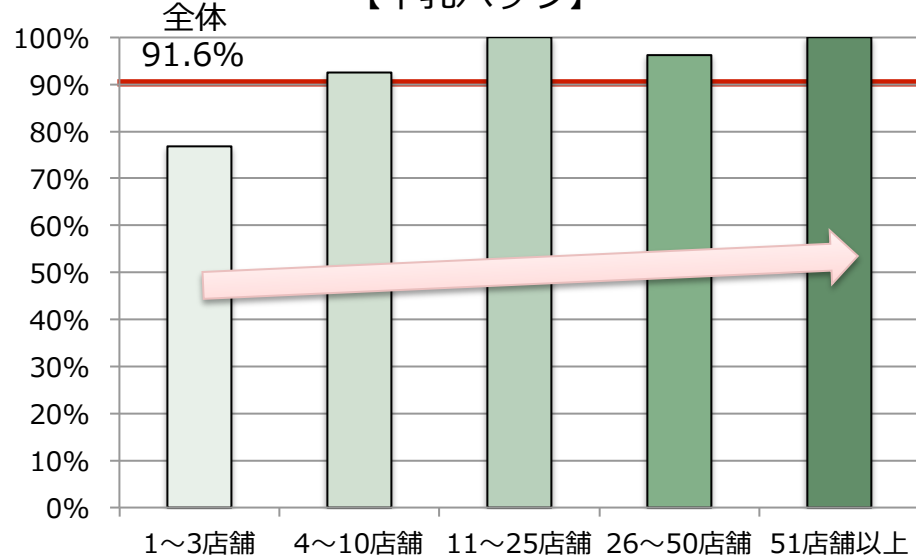
【食品トレー】



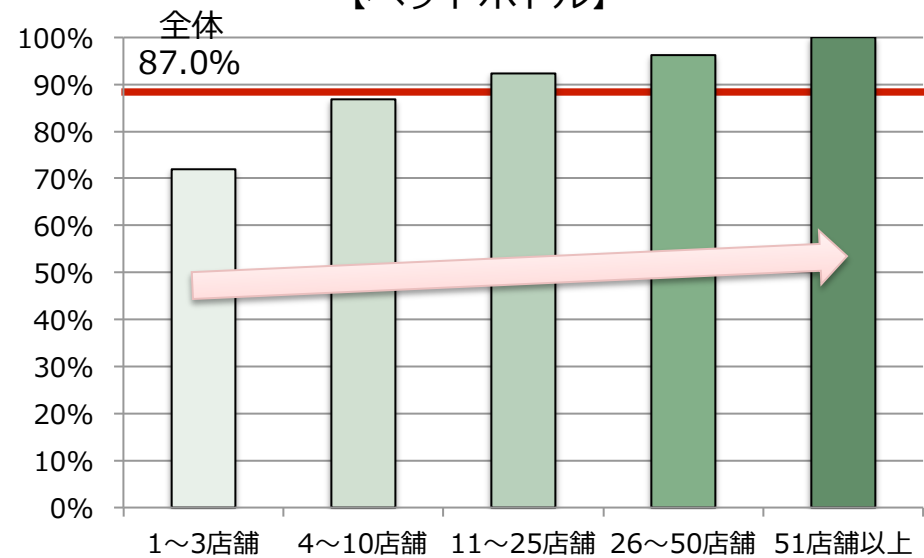
【廃油】



【牛乳パック】



【ペットボトル】

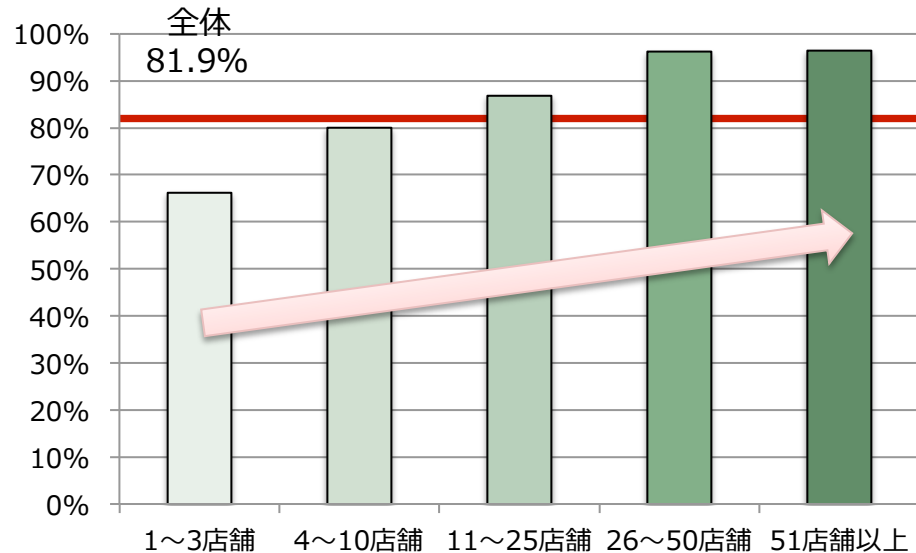
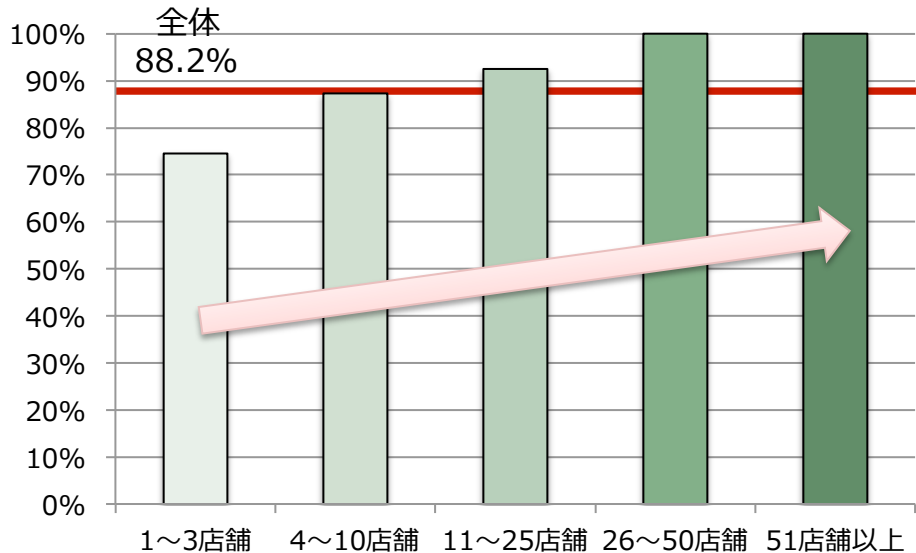


スーパーマーケットにおける環境対策取り組みII（機器調整）

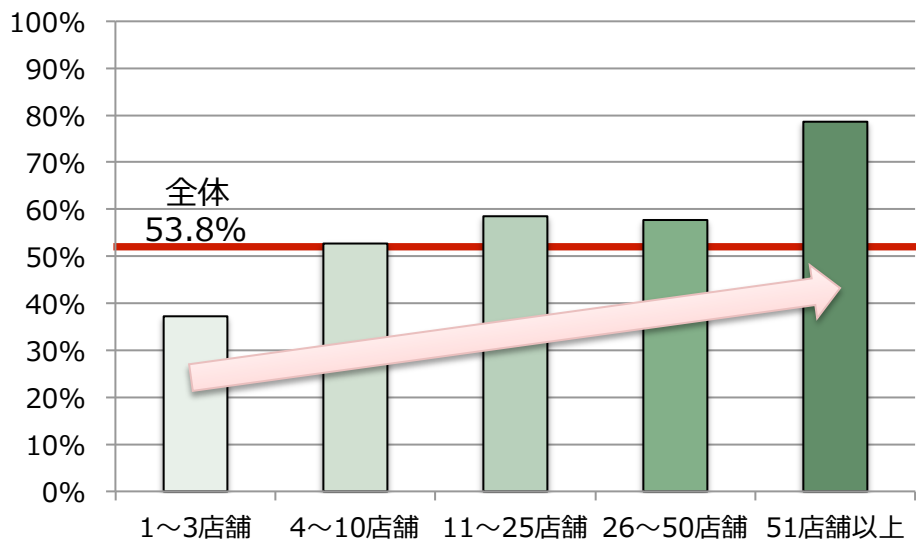
機器調整は照明88.2%・空調81.9%・冷蔵機器53.8%で実施されている

【照明調整】

【空調調整】



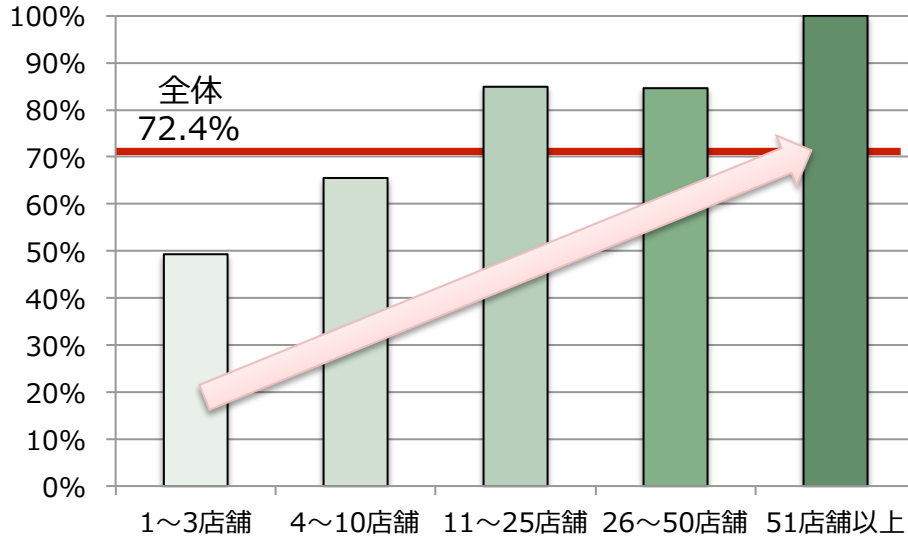
【冷蔵機器調整】



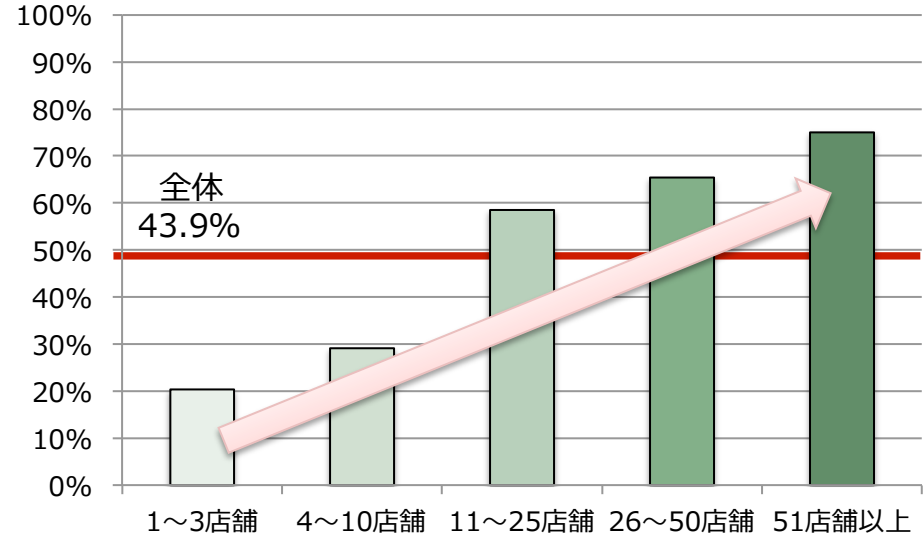
スーパーマーケットにおける環境対策取り組みIII（省エネ機器導入）

省エネ機器の導入は、企業規模による実施率の格差が顕著となっている

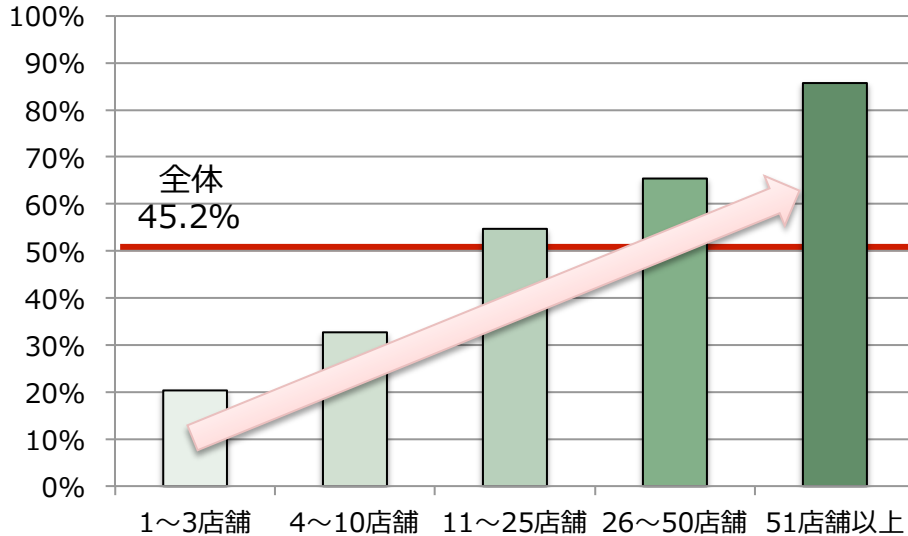
【省エネ照明導入率】



【省エネ空調導入率】

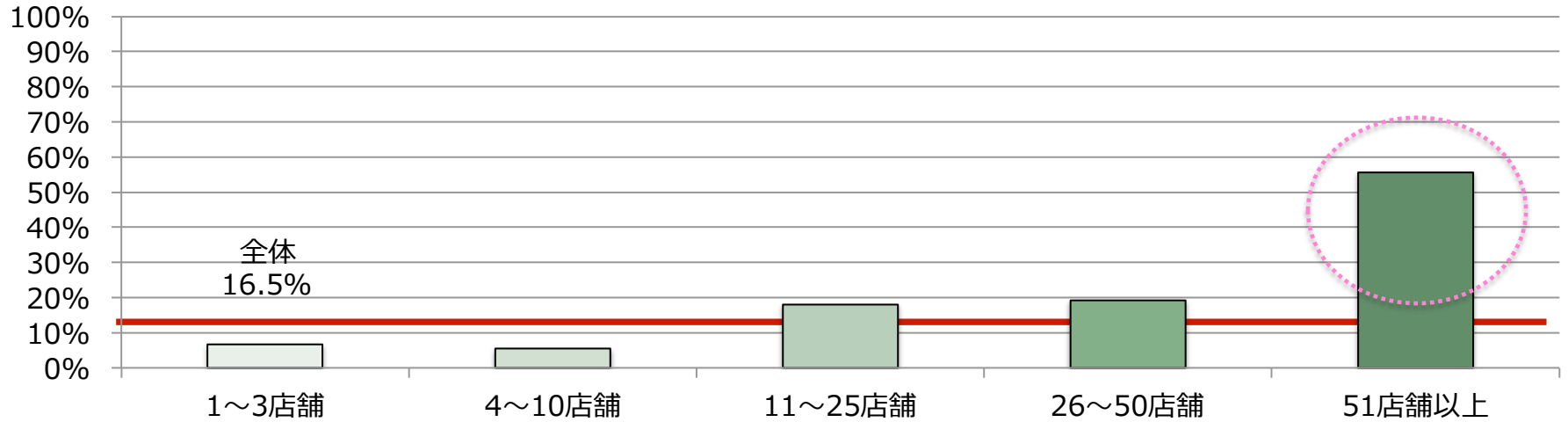


【省エネ冷蔵機器導入率】



スーパーマーケットにおける環境対策取り組みⅣ（再生可能エネルギー）

再生可能エネルギーの導入はあまり進んでいない
51店舗以上の大企業以外ではほとんど実施されていない



今後の課題

リサイクルなど導入コストがかからない環境対策に比べ、導入コストが必要となる環境対策は、顕著に企業間の格差が大きくなっている。

スーパーマーケットにおいて環境への取り組みは、地域貢献活動や社会的な責任を果たすために行われていることが多い。
特に中小規模スーパーマーケットにおいては、取り組みの成果が見えにくく、売上や利益に連動しない費用の支出は容易ではない。



中小規模のスーパーマーケットに対して、環境対策への導入コストをどのように軽減し、取り組みの成果を把握しやすくするかが今後スーパーマーケットにおける環境への取り組みを進めていく課題



一般社団法人
新日本スーパーマーケット協会
New Supermarket Association of Japan